

# HopStepJump 4

<https://toyono-jinjikyoo.com/>

## 授業づくり②

情報教育・ICT 機器を活用した  
授業づくりについて

第3回の初任者研修は、豊中市教育センター情報科学系の北村崇子主査と常駐ヘルプデスクの方々を講師に迎え、「情報教育・ICT 機器を活用した授業づくりについて」というテーマで研修を行いました。

はじめに GIGA スクール構想、GIGA StuDX 推進チームといった国の動向や、1人1台端末をツールとしてどのように活用していくかの講義があり、後半はパワーポイントを授業の導入で活用することを想定して、実際に教材を作成する演習と交流を行いました。以下の点線枠は振り返りシートの抜粋です。

授業の導入部分で興味や関心を持たせるために用いるだけではなく、かけ算の学習など、言葉や教科書だけでは理解しにくいような分野でも、うまくアニメーションを使えば、視覚的に理解しやすいような教材を作ることができ、とても参考になりました。

ほかの受講者との交流の時に、体育でタブレットを使ってフォームを確認する方法が話題になりました。その時、タブレットの写真の連写で児童のフォームを1枚ずつ確認し、具体的に改善点を伝えることができるということ学びました。体育でのアドバイスでは具体的に説明をすることがうまくできず、どうすればいいか悩んでいたため、自分も取り入れたいと思いました。

私自身ももっと積極的に ICT を使っていないといけないなと思いました。私が使えないと子どもたちが使う機会が減ってしまうと思いました。機械から少し逃げていたけど、これからはそんなこと通用しないと思うのでたくさん取り入れていけるように頑張ります。

教科にかかわらず、子どもたちへの「気づき」のステップとして、ICTを用いることの大切さを学べたと思います。他の方の発表や、講師の先生方のお話を聞いて、子どもたちは、紙に書いてある文字よりも、ICTを使う方がより情報が入りやすいのではないかと考える時間になりました。全てをICTにするのではなく、子どもたちにとって、より効果的に情報が入る場面を教師が見極めて、ICTに向き合っていくことが大切だと感じました。

本研修は Zoom を活用した「ライブ配信型」での実施でした。Web 開催は第2回のような「オンデマンド型」での実施もしましたが、いずれにせよメリット・デメリットがあると思います。それぞれの Web 開催にはどのようなメリットがあるのでしょうか。



いずれの実施方法でも、研修の受講で大切なことは「主体性」です。毎回の研修には「研修のねらい」があり、配付資料の「実施日程・内容」で提示をしています。研修受講前に必ず確認をして、ご自身の現状と照らし合わせるようにしましょう。まずは、課題をつかむこと、その課題を解決するきっかけやヒントを研修の中から見つけ出すことは子どもたちの授業と同じです。

演習や交流を、オンライン授業に結びつける記述も見られました。

講義の中で ICT は使うことで慣れていくという言葉の通り、授業の中で積極的に活用していきたいと思います。今後オンライン授業に向けて操作方法の習得とともに効果的な授業方法についても学んでいきたいと思います。

Zoom での話し合いは難しいと思うこともあった。人によっては音声がかたかた聞こえにくかったり、映像が乱れたりして内容が入りにくいこともあった。話すタイミングが被ることもあった。大きくなさずなどの反応をしなければ、自分の話がきちんと相手に伝わっているのか心配になる。オンラインで授業をする際も、出席番号順に発表させたり、スタンプでリアクションをしたりするなどの工夫が求められると思った。

研修を経て、実際に Zoom を使用して授業を受けている生徒の気持ちを知る良い機会になったと感じる。今回の研修で感じた Zoom の良いところ、不便なところを忘れず、今後のオンライン授業に備えたい。

オンライン (Zoom) のライブでの研修により、オンラインを活用した授業や懇談などをイメージしやすく、グループ演習の PowerPoint を用いた画面共有において、どうすれば分かりやすい教材を作れるのか、どうすれば相手に話が伝わりやすいのかを改めて考えさせられました。

研修の最後には、「自己成長・確認シート」について説明し、各自で実施をしました。定期的にご自身の授業や指導を振り返る機会として捉え、活用してください。2回目は2学期の終わり頃を予定しています。

教師として働き始めて約2か月が経とうとしている今の時期に、身につけていること・まだ身につけていないことを把握することは大切だと思いました。今できていることを継続し、これからの課題にしっかり向き合っていきたいです。

新型コロナウイルス感染症への対応には依然さまざまな配慮を要し、年度初めから日常生活はもちろん、学校生活にもたくさんの過ごしにくさがあると思います。先行きが見えそうで見えない中、不安やもどかしさがあるのは研修実施も同じです。

研修内容や実施時期など、コロナ対応以外にも実施方法を決める要因はいくつかの兼ね合いがあります。本来なら第3回の実施はそれぞれの受講日の15時に豊中市教育センターに集まり、講義・演習・交流を対面でおこなう予定でいました。従来の「参加型」、Web開催の「オンデマンド型」、そして、「ライブ配信型」それぞれにメリットがあり、表裏一体のデメリットがあります。自分が思うデメリットは、誰かがメリットに感じていることかもしれないということです。

豊能地区教職員人事協議会のめざす教職員像は、  
「子どもとともに学び続ける教職員」です。

豊能地区（3市2町）での研修実施では、コロナ禍においても受講者同士が所属の市や町を越えてつながること・交流することを大切に、学び続けることをサポートしていきたいと考えています。



振り返りシートにあった「研修内で作ったパワーポイントは、さっそく授業での導入で活用することができました。」という記述は、Web開催で自校の自分の端末で演習をおこなったからこそだと思います。

今日の研修では、他校の先生と交流する機会があり、とても充実した時間となりました。各自が作成したパワーポイントを共有して、それぞれの工夫点を参考にすることができて、自分自身の学びに繋がりました。また、各学校のICTの活用状況や使用の際の困りごとなどを情報交換することができ、今後自分が使用していく中で、参考にしていきたいと思いました。

学級経営や授業づくり、保護者対応で悩んでいるという人がたくさんいました。そのような日々であっても、それぞれが苦戦しながら日々工夫をし、努力していることを知りました。また、子どもたちの様子や最近の学級での出来事、失敗談なども話すことができたので、心が楽になりました。コロナ禍のため、実際に会って初任者同士で話したり相談したりする機会が減ってしまっています。しかし、そのような現状でもZoomのブレイクアウトルームを使って少人数で話す機会があり、とても嬉しかったです。

他市町の方との交流があるので、情報交流の場として活用しています。次回は、私自身がもう少し積極的にコミュニケーションを取れるとよいと思いました。

Zoomでのブレイクアウトルームの時、あまり意見交換をできなかったことが反省点です。1度に全員が話せないため遠慮してしまったり、自分の考えを言うことに躊躇したりしてしまいました。他の方に質問をするなどして、もっと活発に話せるよう意識していきたいです。

Zoomを活用した研修実施では、受講中はもちろん、受講前にもたくさんの準備を要すると思います。端末やネットワークの不具合もあれば、受講者同士の交流でも今までにない心配や配慮が必要なものかもしれません。授業での活用と同様に実施とともに慣れていく部分もあるかと思っています。

それらも踏まえて、「明日の授業では...」「他市町では...」「オンライン授業なら...」といった気づきや学びは、子どもたちの授業と同じで、みなさんも「主体性」や「対話」をもって深めていってください。

「向き・不向きより前向き」そんな心意気を持ち続けるのが「学び続ける」ということなのかもしれませんね。

